


いつの間にか真夏を思わせる日々となり、
梅雨の真ただ中に・・・
季節の移り変わりって本当に速いですね。
じめじめした中では、はりきって・・・という訳にも行きませんが
緑の綺麗な良い季節でもあります。
みずみずしい野菜や果物も店先に並んでいます。
初夏をどのように詠んでいらっしゃるか、楽しみです。
さっそく俳句を拝見いたしましょう。



十七文字の抒情詩




まずうさおさんの句です。

 冷たやな傘を伝いて皐月雨


冷たやな・・・が気になります。具体的にどんな傘なのかを詠まれると良いですよ。
*透明の傘を伝いて皐月雨

 小群れなす夏桑の影背を越して


良い句です。小群れなす・・・が少し気になりますが、しっかり桑を見て作って
いらっしゃるの良くわかります。

 くうと鳴く犬は陽を避け横たわり

良くわかる句ですが、季語を明確にしましょう。
*くうと鳴く犬の昼寝や庭薄暑
昼寝も夏の季語ですが庭の初夏の暑さが主なので
この場合は大丈夫でしょう。

 梅雨しばしえいと駆け出す駅の軒

この句も良いですね。
*梅雨入りやえいと駆け出す駅の軒

 紫陽花の貌薄闇にほの白く

紫陽花の貌がほの白く見えたっていうのは
良いと思います。
*紫陽花の薄闇にほの白く浮く





つづいて健さんの句です。



公園の水音絶へぬ立夏かな

良い句ですね。少しだけ順序を変えると水音絶えない立夏ではなく、絶えない水音で切れが入り季語が際立ちます。

*公園の絶へぬ水音立夏かな



葉裏とは淋しきところ梅雨に入る

葉裏を淋しいと見られたのは建さんの感性ですね～季語が良く効いていますね。



一斉に信号変わる青嵐

う～ん、お上手です。まったく違った事柄なのに季語が生きる。良い句です。



緑さす碁盤の上に碁笥ふたつ

写生句ですね。碁盤に乗った碁笥が目浮かびます。緑さす・・・新緑の爽やかな中でこれから囲碁が始まるのでしょうか？

碁笥に焦点を絞るのなら

*緑さす碁盤の上の碁笥ふたつ



槐の木歩道にこぼす花こまか

こちらもしっかりとした写生句です。花槐を良くみていらっしやいます。



うさおさんも建さんも、初夏を初夏らしい季語でしっかり詠まれています。

季語の力を借りると、まったく別の事柄を詠んでも、それが相乗効果でより心に響く事があります。取り合わせの良い句と言います。

季語の説明をするのではなく響きあう季語を使うのが良いのです。

次回も楽しみにしております。

